

史跡大安寺旧境内(塔院地区)保存整備事業に係る

大安寺西塔跡の発掘調査について

史跡大安寺旧境内(塔院地区)保存整備事業に係る発掘調査を実施したところ、下記の成果がありました。

記

1. 発掘調査の場所 奈良市東九条町1340番地他所在の大安寺西塔跡
2. 発掘調査の期間 平成16年6月28日～現在継続中
3. 発掘調査の主体 奈良市教育委員会
4. 発掘調査の目的 史跡大安寺旧境内保存整備事業により、塔院地区の整備計画立案に関する資料収集のため
5. 調査成果の概要 昨年に引き続き、西塔基壇の調査を行ったところ、以下の成果がありました。

(1) 最大級の塔基壇の全容が明らかに。

今回は塔基壇の東側半分をすべて発掘しています。これまでは、限られた範囲での調査でしたので、塔基壇の規模を実感することが、なかなかできませんでしたが、今回の調査により、巨大な塔基壇の姿を明らかにすることができました。

また、これまでの調査によってある程度まで明らかになっていた基壇の構造が、今回の調査によりさらに詳細にわたって明らかになりました。

(2) 塔廃絶への経過が、より明らかに。

基壇の周りには、大量の瓦が堆積していました。堆積の状態から2回に分けて、塔が崩れていった様子が窺えます。一度目は、火災以外の原因で崩れ、二度目は火災が原因で完全に焼亡した様子が見て取れます。

(3) 塔相輪の基礎部分 露盤が出土。

前回までの調査で、風鐸、風招、水煙などが出土していましたが、今回の調査では塔相輪の基礎部分となる露盤の破片が出土しています。

破片であるため、本来の大きさは不明ですが、厚さ2cm程もある銅板できており、一箇所に釘で留めるための穴が造られています。

問い合わせ...教育委員会社会教育部文化財課

埋蔵文化財調査センター TEL 0742-33-1821